

「ちょっと立ち止まって」

要点と期末テスト対策ポイントまとめ

「ちょっと立ち止まって」 あらすじ

「ちょっと立ち止まって」

自分はAだと思っていたものが、人からBだとも言える、教えられることがある。

「ルビンのつぼ」という図には、「つぼ」と「向き合っている二人の顔」の二種類の絵を見てとることができる。

どちらかを見ているとき、もう一方は背景になってしまう。カメラで言えば、注目しているほうにピントが合わせられてしまうのだ。

「若い女性」と「おばあさん」の二種類の絵が見える図では、ひと目見てどちらかの絵として見ると、別の絵として見ることは難しい。

別の絵として見るには、今見ている絵を意識して捨て去らなければならないからだ。

「化粧台の前の女性の絵」ではどうか。

目を遠ざけると、たちまちこの図はどくろを描いた絵に変わる。

近くから見るか、遠くから見るかによっても全く違う絵として受け取られるのだ。

そしてそれは、現実世界でも同じで、遠目では綺麗な山も、近づけば荒々しい姿が見えたり、遠目では綺麗なビルも、近づくとひび割れていたりする。

私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、一面のみをとらえて、その物の全てを知ったように思いがちだが、見方を変えると、見えるものも違ってくる。

物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみてもはどうだろうか。

その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう。



テスト対策ポイント①

それぞれの図の内容と事例を整理しよう

「ちょっと立ち止まって」では、筆者が説明したいテーマがあって、「なぜそう言えるのか」を伝えるために、いくつかの例を紹介しているよ。

テストでは、それぞれの例の内容と、「そこからどんなことが言えるのか？」を聞かれることがあるので、しっかりと整理しておこう。

例① 「ルビンのつぼ」

「ルビンのつぼ」という図は、「優勝カップのような形をしたつぼ」と、「向き合っている二人の顔の影絵」の二種類の絵を見てとることができる図だね。

片方を見ているときは、もう片方は「背景（バック）」になってしまうよ。

日常生活で同じことが言える例として、「橋の向こうから一人の少女がやって来ると、少女にピンとが合わせられて、橋や池などの周辺のもので背景になってしまう」ということを説明しているね。

この例から言えることは、

「見るという働きは、中心に見るものを決めたり、それを換えたりすることができる」ということ。

つまり、「なにを中心に見るかによって、見え方が変わる」ということだね。

例② 「若い女性とおばあさんが見える図」

ここで紹介されるのは、「若い女性の絵」と「毛皮のコートに顎をうずめたおばあさんの絵」の二種類が見える図。

この例では、「ひと目見て即座に、何かの絵と見ているはずだが、そうすると、別の絵と見ることは難しい」ということが言えるよ。

一度「若い女性」だと思って見てしまうと、「おばあさん」として見るのはなかなか難しいよね。

「ほかの絵として見るには、今見えている絵を意識して捨て去らなければならない」と筆者は考えているね。



例③ 「遠くから見るとどくろになる図」

そして最後に紹介されるのは、「化粧台の前に座っている女性の絵」。
なんと、目を遠ざけてみると、「どくろ」が見えるようになるね。

このことから言えるのは、「同じものでも、近くから見るか遠くから見るかによって、全くちがうものとして受け取られる」ということ。

日常生活の例では、「遠くから見ると秀麗な富士山が、近づくと、岩石の露出した荒々しい姿に変わる」ということや、「遠くから見ると綺麗なビルが、近づいて見ると、ひび割れてすすけた壁面のビルだったりする」ということ。
つまり、「見ることの距離を変えたりすることで、新しい発見がある」ということだね。

テスト対策ポイント② 本文の内容を3つに分けて整理しよう

「ちょっと立ち止まって」は、「説明的文章」だよ。

説明的文章は、誰かに何かを「説明」して「納得」してもらうための文章なので、

- 1.何を説明するのか？を紹介する（序論）
 - 2.具体的な例をあげる（本論）
 - 3.その結果、言えることを伝える（結論）
- という構成になっている。

「ちょっと立ち止まって」も、序論・本論・結論の3つのまとまりに分かれているよ。
どこからどこまでが「序論」で、「結論」はどこからなのかということが、テストでは聞かれることがあるよ。しっかり整理しておこう。

序論

第1段落では、「自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると指摘され…」と、これから説明しようとしているテーマの紹介をしているね。
ここまでが序論だね。



本論

第二段落の「左の図は『ルビンのつぼ』と題されたものである。よく見ると…」と、早速、筆者が説明しようとしているテーマについての「具体的な例」の紹介が始まったね。

ここからが「本論」だよ。本論では、

- 1.ルビンのつぼの図の例
- 2.若い女性とおばあさんが見える図の例
- 3.離れると、どくろに見える図の例

というように、3つの例を紹介しているね。

「本編をさらに細かく分けるとしたら？」という問題が出ることもあるよ。

1・2・3のそれぞれの図について説明で分けることができるね。

結論

なにをこれから伝えるのか紹介して、

どうしてそう言えるのか例をあげて、

そしていよいよ、「だから〇〇なのだ」と、筆者の考えをまとめるのが「結論」だね。

「ちょっと立ち止まって」では、第十段落の「私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ…」というところが結論になっているよ。

テスト対策ポイント③

筆者の言いたいことを確認しよう

説明的文章では、「筆者が説明したいこと（テーマ）」が必ずあるよ。

この「筆者は何を伝えたいのか」を答える問題は、テストでも良くでるので、しっかりおさえておこう。

筆者が伝えたいことは、結論に書いてあるね。

「ちょっと立ち止まって」で筆者が伝えなかったことは

「私たちは、ひと目見た時の印象に縛られがちであるが、ちょっと立ち止まって、中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりして『他の見方を試して』みれば、その物の他の面にきづいて、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができる」

ということ。



「ちょっと立ち止まって」 テスト対策まとめ

「ちょっと立ち止まって」まとめ

- 「序論」「本論」「結論」の3つのかたまりに分かれている。
- 「序論」では、何について説明するか紹介がされている。
- 「本論」では、3つの図の例をあげている。
- 筆者の伝えたいことは、「私たちはひと目見たときの印象に縛られがちなので、ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみれば、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう」ということ。

